

小説教材における「習得・活用」の授業・評価開発

— 村上春樹「青が消える」(高校1年・明治書院)を例に —

佐藤 洋 一 (愛知教育大学教育実践講座教職大学院)

岡田 智 (愛知教育大学教職大学院学生)

How do we use a novel in our Japanese language classes, where students can acquire the basic knowledge and wake the best use of it? And what's the evaluation method of it?

— for example, “Blue is fading away (Losing Blue)” by Haruki Murakami, MeijiShoin,
for first-year students in senior high school —

Yoichi SATO (Graduate School of Practitioner in Education, Aichi University of Education)

Satoshi OKADA (Graduate Student, Aichi University of Education)

要約 小説教材の指導は戦後以降、膨大な量の実践研究が提案されてきたが、基礎・基本の学力と評価観が曖昧である実践や系統性の希薄さ、習得型学力が身につけていないままの討論の授業が行われてきた。新学習指導要領では基礎・基本的な知識・技能の「習得」とともに思考力・判断力・表現力等への「活用」の学力、「学習過程の明確化・言語活動の充実・学習の系統性の重視・読書活動の充実」等が国語科改訂の要点として示されていることは重要である。本稿はこれらの改訂国語科の緊急な実践課題を、生徒にとって関心は高いが、国語科文学教材の授業での扱いに混乱が多い村上春樹の寓意的な現代小説教材（「青が消える」）を例に提案したものである。小説教材における「習得・活用力」の段階的な学習過程論・学力を明確にした「学習シート」の開発と活用・現代小説としての村上春樹教材の特質を生かす視点・小説教材の実践課題の克服・自己学習能力育成の一環としての振り返り項目（メタ評価能力）等のポイントを論じた。本稿は、PISA型読解力や全国学力調査で求められる全教科・領域・活動の中核としての言語力（習得・活用力）育成の課題を、国語科学習過程論・評価論・教材論の立場から具体的に提案したものである。

Keywords : 習得・活用(力), 村上春樹, 青が消える, 授業・評価開発, 寓意性

1. 「習得」「活用」の重視と今日的な課題

教育基本法・教育三法の改正を受け、新学習指導要領が2008年3月に告示された。改訂のポイントは多岐にわたるが、重要なのは、特に「習得・活用力」の重視による課題解決能力の指導である（注1）。

「総則」の解説では「確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむことの双方が重要であり、これらのバランスを重視する必要がある」と指摘されている（傍線は稿者）。改訂の意味を踏まえ各教科・領域・活動等で「習得」と「活用」の系統・段階を重視した授業計画と実践的な指導を具体化していく必要がある。

こうした考えの背景には、学習活動（体験）はあっても身につけさせるべき基礎・基本の学力（いわゆる習得型学力）が曖昧、習得すべき学力が身につけていないままに安易に話し合い等の授業が行われてきたと

いう実態がある。このような授業では結果的に一部の生徒のみが活躍するという授業になり、学校における学力保証という公的責任は果たせない。特に、国語科では戦後50年以上にもわたって、教師主導の系統的な指導（表層的なスキル学習？）と学習者尊重の主体的な学習活動（「活動あって学習なし」との批判）の狭間で学習者につけさせたい学力（到達目標と評価規準・基準）・指導過程（単元構想等）が曖昧なまま実践されてきた経緯がある（注2～5）。

本稿は、難解とされる村上春樹教材「青が消える」の「習得・活用力」の授業モデルを提案することで、国語科の今日的な実践課題を踏まえた授業改革論である。これらの実践開発は、PISA型読解力や全国学力調査で求められる全教科・領域・活動の中核としての言語力（習得・活用力）育成の課題を、国語科学習過程論・評価論・教材論の立場から具体的に提案するものである。

2. 国語科「習得」「活用」の授業づくり

国語科改訂の要点では「学習過程の明確化」「言語活動の充実」「学習の系統性」が重視されている(注6)。これらの改訂の要点を踏まえ、これから求められる授業構想・学習過程を作成する場合には、

- (1) 言語活動によって身につけさせるべき「言語能力・指導内容」と活動を一度明確に区別すること。
- (2) 「習得・活用力」の授業における構造的関連を意識し、段階的・系統的な学習過程をつくること。
- (3) 他教科・活動での言語活動と評価にリンクする視点(「自分の考えをもつ」・論理的レポート・説明・要約等)、読書力や「探究」へ生きる系統性、の3つが必要である(注7)。

3. 小説教材の指導の実態と課題

これまでの国語科教育では、特に物語・小説教材指導は教科内容の中心的な役割を担ってきた。しかし長時間をかけて登場人物の気持ちや主題を細かく追求する心情・主題理解中心指導、物語・小説の言語構造やジャンル・表現の特質を軽視した道徳的な指導、本来の意味での読書力・課題解決能力に展開する「言語の教育」としての国語科授業とはかけはなれた指導がなされてきた実態がある(注1)。

新学習指導要領・中央教育審議会答申(注6, 8)でも「小学校、中学校及び高等学校を通じて、言語の教育としての立場を一層重視」といった言語力育成による学力保証の重視(公的責任)が改めて重視されている。国語科における文学教材・小説指導の位置と役割、他教科・領域・活動とのリンク等を視野にいたした授業・評価開発と評価が重要である。

4. 小説教材における「習得・活用」の授業づくり

「習得」「活用(力)」は整然とはわけられないという指摘もある。しかし各段階における指導を明確にすることで、(1) 漠然としていた「学びの系統性—基礎・基本から活用へ—」、(2) 「学びの量的・質的評価」、(3) 学習者のつまずきの診断と的確な支援等の実践課題を具体的に改善し、授業力向上の契機にすることができる(資料1参照)。

「習得」では教師が教えるべき内容をきちんと指導することが重要である。まずは、教師としての指導責任を果たし、子どもたち「全員に」「確かな学力を保証する」ことが必要だからである。

「習得1」では、学校教育全体における広義の「基礎学力」を育成する。「習得2」では、物語・小説教材の言語構造や表現の特質を理解する国語科固有の学力を育成

資料1 小説(物語・ファンタジー)教材の「習得・活用」の指導過程・言語能力表

	学習段階	学習活動(言語能力)	指導上における留意点
習得	「習得1」 学習への興味・関心を高め、見通しをもち、「読む技術」の学習の基盤をつくる。	(1) 物語(小説)を読むことに興味・関心を持つ。 (2) 学習に対する見通しをもつことができる。 (3) すらすら音読できる。 (4) 新出漢字・語句の意味がわかる。 (5) 楽しく学び合うことができる。	(1) 物語(小説)の感想の持ち方の観点を教える。 (2) 物語(小説)学ぶ内容と方法を理解させる。 (3) 内容を正しく理解させるために音読させる。 (4) 新出漢字の学習や語句の意味を調べさせる。 (5) 集団、学級の中で学び合わせる。
	「習得2」 文学的文章の学習から文学固有の構成・描写・批評性を読み取り、テキストの特質や方法・内容について考えをもつ言語技術を理解する。	(1) 作品の状況設定(時代・舞台・登場人物)とあらすじがわかる。 (2) 中心人物の変化とその要因がわかる。 (3) 対比的人物とその役割と効果が理解できる。 (4) 優れた描写や象徴的イメージを理解することができる。 (5) テーマについて読み方がわかる。	(1) 状況設定を把握させる。 (2) 中心人物に目を向け、その変化を理解させる。 (3) 対比的人物とその役割と効果を理解させる。 (4) 優れた描写や表現、「象徴的イメージ」に気づかせ、意味を考えさせる。 (5) 作品のテーマの読み方を教える。
活用	「活用1」 習得(基礎・基本)における成果としての「発信学習」をする。	(1) 好きな人物・場面、表現を選んで、文章で書く。 (2) 自分の読みを、レポートにまとめる。 ①舞台や登場人物の関係 ②中心人物の変化ときっかけ ③主題 ④描写や象徴性 ⑤その他(教材のもつ特質に応じて) (3) 物語の構成や方法、表現を使って、文学的文章を書く。 (4) 作品に対する意見文を書く。 ・現代社会や時代の課題と結びつけて意見を書く。 ・自分の「生き方」「考え方」と結びつけて意見を書く。	(1) 自分の立場から好きな人物・場面・表現を選択し、文章で書かせる。 (2) 学習した内容を自分の立場から選択し、再構成させる。 (3) 表現の仕方を工夫して、物語や詩歌などを書く。 (4) 作品における構成や表現などに対して批評する。 ☆(1)～(4)を学習者の意欲・学びの実態・教材の特質に合わせて選び、言語活動を行う。
	「活用2」 「活用1」で学習した内容をもとに話す力・聞く力、伝え合う力を育てる学習段階	(1) 相手に伝わるように工夫して話すことができる。 (2) 発表を正しく豊かに聞くことができる。 (3) 友達の良さ、課題がわかり、質問や意見を言うことができる。	(1) 自分の主張が伝わるように、姿勢などに気をつけて、発表させる。 (2) 友達の発表を聞く時のポイントに気づかせる。 (3) 友達の発表を自分の考えと比較して聞かせ、考えを書かせる。
評価・一般化	学習全体を振り返ることで、メタ認知能力を育成する。	(1) 自分の学習の成果を(到達度・理解度)を振り返る。 (2) 自己を向上しようとする(関心・意欲・態度)。 (3) 読書活動や他教科を通して、生活や人間関係に生かそうとする。	(1) 学びの成果を確認させる。 (2) 学んだことを他教科に生かせるように、自分の新たな課題を発見させる。 (3) 読書活動や人間関係、他教科の学びに生かすようにさせる。

するのに関わる部分を育てる学習を行う。物語・小説の学習では、文学固有の構成・描写・批評性等を読み取り、テキストの特質や方法・内容について「自分の考えをもつ」モデル学習が有効である。特に小説教材（物語、近現代小説）を扱う際には、以下の6つの観点に基づいて指導する必要がある。

- (1) 状況設定（人物・舞台・時代背景）とあらすじの理解
- (2) 作品の構造をとらえる（場面構成、設定と結末、人物の変化）
- (3) 中心人物の変化ときっかけ、その解釈を考える
- (4) 対比的人物の役割と効果（中心人物の変化を強調、その他）
- (5) 特有の描写と方法—会話と心情（個性、性格、思想）、自然描写の役割、象徴的イメージや文明批評、寓意など—
- (6) 主題の構造（3つの型）と作品の批評性—作者の意図・思想型、中心人物の変化・作品構造型、読者の自由な解釈型—

この6つの観点は物語・小説（近現代）教材の解釈・批評する場合有効である。単一・特定の教材だけにしか通用しない方法ではなく「言語技術」として一般可能な読み解き批評する観点を指導することで、学習者に身につけさせたい学力（到達目標）が授業・評価レベルでも明確になる。これらの観点をもとに、「正確に」「豊かに」読み解き主体的に批評する観点を指導し、習得・活用させる。

「活用」では、生徒の発見や個性などの主体性を重視した学習を行う。「活用1」では習得を自分の立場や関心から論理的にまとめる発信学習を行う。この学習を通して、「習得1・2」で身につけた力をより確かなものにし、わかりやすく書く能力を身につけることができる。例えば多様に解釈・批評できる点や学習者の実態に合う観点を発信のテーマにすれば交流学习で豊かな学びをすることができる。

「活用2」では、「活用1」で学習した内容をもとに話す力、聞く力、伝え合う力を育てる。話す観点・聞く観点を、内容の評価・小説の方法も含めて示すことで生徒の課題意識を生かした交流が可能である。

「評価・一般化」の学習では、それぞれの学習段階で、「振り返り（メタ評価能力）」の学習を行う。身につけた学力と今後の課題を意識させ、探究学習や他教科の学習へ生かす視点を獲得させる。

5. 小説教材の特質と教材研究

—村上春樹「青が消える」を例に—

村上春樹の作品は、現在「鏡」「カンガルー日和」「バースディガール」等、短編小説を中心に中学・高校教科書で教材化されている。村上春樹の作品はファンタジーの手法（作品構成）・意識と無意識の交錯する心理描写・文明批評的な「寓話的」方法、象徴的イメージ等、中学・高校における小説教材の読み方、生

徒の読書力育成に生かすことができる。

村上春樹の作品論は多数あるが、授業方法論・評価論等、具体的な実践と評価を視野に入れた研究（実践）論文はきわめて限られ、村上作品の本質的な特質に言及した授業研究論にも不十分なものが多い。こうした現状を踏まえ「青が消える」（高1・明治書院）を例にしながら、「習得・活用力」の実践モデルを提案することにしたい。

本作品の代表的な教材論の一つとして、教科書指導書（石川則夫氏執筆、注9）がある。石川氏は比喩表現に着目し中心人物の心情を把握するという指導観に立っている（詳細は省略）。このような指導観は、一つの主題に到達するための表層的な内容読解主義に陥っており、人物設定の役割・描写・文体の特質、寓話性（文明批評的な構図）の表現技術や村上作品固有の特質、教材における〈現代性〉〈批評性〉も十分には捉えられていない。

「青が消える」のような文明批評的な構図（寓話性）を持つ小説教材を指導する際には、一つの主題に到達することがゴールとなるような指導ではなく、各学習過程でどのような力を「習得」させるのか、「習得」を踏まえた「活用力」とは何がどうわかることなのかを明確にして段階的に指導をしていく必要がある。以下、要点について述べる。

(1) 作品における〈批評性〉と「習得・活用」

「青が消える」は、2000年を迎える前日の夜、現実社会との関係に混乱と課題を抱える岡田という男性が〈青が消える〉という非日常的な事件をめぐって複数の人物と関わる中で、現代社会（国家・組織、「現代人を支配管理する、見えない大きな力」の構造）と自己の関係を浮き立たせるという構造の作品である。1999年の大晦日を舞台に「中心人物の語り（現実）」と「青が消える（非日常）」の二つの世界の枠組みの中で、現代人・現代社会の「経済」や「価値観」を取り巻く問題をユーモラスな批評（皮肉）として寓話的に描いた文明批評的な作品である。

(2) 場面構成と作品構造

—中心人物の《関係》発見型の小説—

本稿では指導書と異なり作品を全8場面構成としてとらえている。なお、ページ数は『村上春樹全作品1999～2000①』（講談社・2002）による。

1 場面…冒頭 [青が消える]（～P277. L5）

2 場面…展開① [消えた青を家で探す]

(P277. L6～P278. L13)

3 場面…状況設定 [ひとりぼっちな僕]

(P278. L13～P279. L2)

4 場面…展開② [別れたガールフレンドに電話]

(P279. L3～P280. L4)

5 場面…展開③ [ブルーラインの地下鉄にて]

(P280. L5～P281. L2)

- 6 場面…発展① [別の青を探す]
(P 281. L 3～P 281. L 10)
- 7 場面…発展② [コンピュータシステムとの電話]
(P 281. L 11～P 282. L 5)
- 8 場面…結末 [新しいミレニアム]
(P 282. L 6～)

全8場面は、1場面の「青が消える」という非日常的な事件設定から始まる。このような「喪失・欠落」からの書き出しは「ノルウェイの森」「象の消滅」(注10)等の他の村上作品にも共通しており、日常と非日常的が交錯しながら現代人の深層心理(意識と無意識の構造)を浮かび上がらせる方法である。

4・5・7場面では、中心人物が複数の対比的人物に段階的に出会うことを通して(女性、駅員、大臣)、中心人物の考えや個性の重要性、そのこだわりのもつメッセージ性が明確になる過程が描かれる。小説の構成単位である「場面」毎に学習させること、中心人物のはじめと終わりの変化と解釈により、小説の読み方の型を理解させることができる。

また「青が消える」は中心人物の変化による《関係》発見型の構成をもつ作品であり、《解体》崩壊型の近代小説の教材とは違う特徴をもつ(注11)。《関係》発見型の構成の特質を指導することを通して、他の近現代小説にも通じる小説の読み方・批評的な解釈と考察の方法に気付かせることができる。

(3) 登場人物の設定とその役割

「青が消える」には登場人物すべてに役割と意味があり、それぞれの人物が効果的に設定されている。

①岡田(中心人物)は、ガールフレンドと喧嘩別れをし、2000年になっても何も変わらないと感じており、自己とも社会ともうまく関わることができない人物に設定されている(語り手+中心人物)。

②総理大臣は、現代の「見えない大きな力」を象徴する人物である。「歴史」「経済」をキーワードにしながら、現代社会における現実を支配・管理する「見えない大きな力」や消費社会の隠れたイデオロギーを示す人物である。「何かひとつなくなったら、また新しいものをひとつ作ればいいじゃありませんか」には総理大臣(という権力や制度)の思想が巧みに語られている(世界を支配・管理する「見えない大きな力」を表す象徴的人物)。

③地下鉄の駅員は、時代の価値観を無批判に受け入れて生きるしかできない人物である。この駅員もブルーを身につけている人物であり、岡田と同じ状況に置かれた人物なのである。そういう意味で岡田の〈鏡像〉であるとも言える。駅員が帽子を投げつけて怒る理由は、時代の価値観に従うだけで、どうしようもできないからである(自分を支配・管理するものの意味を、真に考えようとしぬ人物の例)。

④別れたガールフレンドは、時代の変化に目を向け

ない人物である。また二十世紀最後の夜にパーティーをして楽しむことや岡田との会話から時代の多数・一般・常識的価値観を示す人物であると言える(目先の変化や流行にとらわれ、現実の真の意味と向きあおうとしない「常識的な人物」の例)。

「青が消える」では①中心人物を生かすために②～④の対比人物が効果的に設定されている。中心人物の岡田が、②～④の人物と関わる中で現実の深層にある人間性の危機に出会う過程を読み取ることが村上の〈批評性〉を読み取ることにつながる。このような人物の役割を「習得2」の学習段階で気づかせていくことで、「活用1」の段階での発信学習につながる。

(4) 時代設定と舞台設定の効果

近現代小説教材を読み解く場合、時代設定と舞台設定は学習の最初に確認しておくべき観点である。本作品では1999年の大晦日に時代が設定されている。新しい世紀を迎える直前に作品の時代を設定することの意味を確認する必要がある。また、作品の初出は1992年であるため、村上春樹は近未来の世界を描いていることになる。近未来の設定であることがわかる表現(コンピュータシステム、クレジットカードで電話をかける設定等)を確認することで作品の批評性を考える学習に繋げることができる。

作品の舞台を「東京」に設定している。東京は日本における経済・政治、情報発信の中心地である。こうした場所を舞台として設定することで、時代の価値観(総理大臣の考え方)の危うさや欺瞞性を強調したり、最終場面での僕(岡田)の混乱によって個人の生々しい人間性や好み・嗜好という核心が「見えない大きな力」にからめとられていく危機感を浮き立たせたりする効果があると考えられる。

(5) 象徴的イメージ—「青」という多義性—

象徴的イメージの効果を考えることは、作品のもつ優れた表現技術を分析的に解釈することである。本作品は中心人物の岡田が「青」が消えてしまった理由を探し求め、対比的人物に出会う構図で深化する過程が描かれている。「青」のイメージは2場面では「個人の日常性やこだわり(国家・組織や支配との対比)」を表し、6場面では真の自由・正義・幸福等の精神性を象徴している。8場面ではこうした「青」の消滅によって「見えない大きな力」による支配や管理の恐怖、こうしたことに無自覚・無力な現代人の不幸や危機感を巧みに象徴していると読むことができる。

このような象徴的イメージとしての「青」は多義的・多様な意味合いが込められている。初出がフランスのル・モンド誌に発表されたこと(フランスの国旗の「青」に象徴される〈自由〉の意味)、その他、描かれている幾つかのエピソードの意味を解釈することが重要である。このように、象徴的イメージは主題の解釈と批評という学習活動と結びついている。

6. 村上春樹「青が消える」の授業計画

—到達目標（評価基準）と国語科「言語能力」—
以下、「青が消える」の授業計画の要点を述べることにする（資料2参照）。

習得1 すらすらと音読し、「読み方」の観点に沿って感想、意見、課題等を書くことができる。

習得2

- ① 現代小説の場面（構造）を意識して読み、あらすじを「正確に」まとめることができる。
- ② 中心人物の変化とその要因・対比的人物の役割・描写・主題の構造が「正確に」「豊かに」理解し、感想・意見を持つことができる。

活用1

- ① 習得の学習をふまえて教材に対する意見文（自分の考え、批評）を論理的にまとめる観点を理解できる。論理的レポート作成・要約・説明力等。
- ② 自分の考えや課題意識をある観点から再構成することができる。

活用2

- ① 論理的な作品意見文を書くことができる。
- ② 作品意見文を自己評価・相互評価できる。

評価・一般化学習

- ① 学習した内容（到達目標の観点）を意識し、自己評価・一般化できる。
- ② 自分の生活経験や課題意識、読書、他教科と結びつけて考えることができる。

資料2 学習指導計画（6時間完了）—「習得・活用」における学力の明確化—

段階	時	学習活動（指導事項）	指導・支援 □は評価の観点	活用	発展的学習	発展学習
習得	基礎学習	1 教材文に対する興味をもつ。	1 〈指〉 ・村上春樹の小説を紹介したり、青のもつイメージを話し合わせたり、2000年について知っていることを問いかけてたりすることで教材文に対する興味をもたせる。	5	1 【学習シート④】によって、自分の立場から意見を論理的に記述する観点を理解する。	1 〈支〉 ・基本学習で学んだことをもとにしながらかえさせる。 【学習シート④】の観点 ①興味をもった登場人物について ②場面について ③色のイメージについて ④主題の解釈について
		2 教材文を音読をする。	2 〈指〉 ・教師による範読・指名読みなど工夫して行う。 ・場面分けは教師が指示する。			
基本学習	基本学習	3 【学習シート①】で現代小説の読み方のポイントを理解する。	3 〈支〉 ・学習に対して見通しがもてるように習得すべき内容を伝える。	6	2 原稿用紙（作品意見文）をもとに相互交流・相互評価する。	1 〈指〉 ・グループ（4人）ごとに相互交流させ、他の生徒の観点や表現を相互評価させる。
		4 【学習シート①】を記入する。	4 〈支〉 ・書けない生徒には、場面や表現が抜き出せるだけでも、すばらしいことを伝える。 【学習シート①】の観点 ①興味を持った場面とその理由 ②小説を読むために重要な場面・表現とその理由 ③興味をもった登場人物とその理由 ④優れた表現・イメージとその理由			
		5 1時間の授業を自己評価する。	5 〈指〉 ・自己評価項目を記入させる。			
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・すらすら音読ができたか。 ・小説の読み方のポイントが理解できたか。 ・観点を意識して感想をもてたか。 </div>				
		2 1 【学習シート①】による感想の交流をする。	1 〈指〉 ・良い着眼点の感想をプリントにまとめて生徒に紹介し、自分の気付かなかった観点到に気付かせる。			
		2 【学習シート②】を記入し、現代小説の構造を理解し、あらすじをまとめることができる。	2 〈指〉 ・場面ごとに音読・黙読しながら、学習シート2を記入させる。 【学習シート②】の観点 ①状況設定 ②作品の構造と各場面のあらすじ			
		3 3 【学習シート③】を記入し、人物像の設定・役割とその変化について理解する。	3 〈指〉 ・場面ごとに音読・黙読しながら、学習シート3を記入させる。 【学習シート③】の観点 ①中心人物の設定とその効果 ②中心人物の変化とその要因 ③対比的人物の役割と効果			
		4 4 【学習シート③】を記入し象徴的イメージと主題の構造について理解する。	4 〈指〉 ・読解したことをもとに、シートを記入させる。 【学習シート③】の観点 ①象徴的イメージ②主題の構造			
		5 基本学習の自己評価をする。	5 〈指〉 ・自己評価項目を記入させる。			
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・現代小説の構造・あらすじ・人物の変化・役割を理解できたか。 ・象徴的イメージ・主題の構造を理解することができたか。 </div>				
						<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・他の生徒の優れたところを見つけ、評価することができたか。 </div>

7. 学習シートの開発・活用と授業展開のポイント

本稿では、5枚の学習シートを開発して、授業モデルを提案した。学習シートを用いることにより、生徒に小説教材における「学び方」の観点を明確に示すことができる。

また、1時間の授業で何を学ぶのかを提示することは、生徒に学力を保証するための有効な方法である。教材研究で考察した学習構想や主要発問を学習シートに示すことで、より具体的な授業モデルが提案できる。

以下、授業の展開と学習シートの活用の仕方（要点のみ）について述べる。

(1) 生徒の感想を生かした小説教材の指導

—基礎学習「学習シート①」(資料3)—

「習得2」での学習に対する見直しをもたせるために、小説を読む上での6つのポイントを確認する。

ただ漠然と感想を持たせるだけでなく、小説の「読み方」の基本学習「習得2」へとつながるように、観点を意識させ、言語化させることが重要である。

自分の考えの根拠を明らかにすること（観点1）、小説教材解釈への気づき（観点2）、登場人物の役割と効果（観点3）、描写・象徴的イメージへの着目（観点4）等を意識させることで、「習得2」、「活用1」での学び方への問題意識を高めることができる。

(2) 小説の「読み方」を教える

—「習得2」[学習シート②・③](資料4・5)—

学習シート②では、状況設定、あらすじ、場面構成を正確に理解させる。村上春樹作品を例にしながら、他の小説教材の「読み方」を定着させることができる。これらの観点を意識させながら、基礎学習での生徒の気づきを取り上げ生かしていく。

学習シート②では、作品全編を1枚のシートにまとめることにより、あらすじと作品の構成を視覚的に理解しやすいように工夫してある。

学習シート③では、主要発問を明示することにより、生徒に何が理解できればよいかという到達目標を意識させ自己評価能力を高めるステップとすることができる。

(3) 自分の立場から論理的に文章を書く

—「活用1」の学習「学習シート④」(資料6)—

「学習シート④」では「習得」における成果（活用力への展開）としての「発信学習」を行う。観点をあらかじめ示すことで、基礎学習・基本学習の学びの成果を、習得の定着化と活用への展開として振り返らせることができる。

紹介文はただ感想を述べるだけでなく、自分の立

場を明確にし、4段階の「論理的な構成（はじめ・なか・まとめ・むすび）」で要約、引用、キーワードによる一般化などを意識して指導する。同時に段落ごとに書く観点を決めることで、原稿用紙の使い方の指導を行うことができる。

到達目標や評価が曖昧な言語活動を行うのではなく、論理的な文章の書き方や発信のモデルを学ぶことは、現在求められている国語学力育成において重要な課題である（注12）。

(4) 論理的な交流モデル

—「活用2」の学習「学習シート⑤」(資料7)—

書いた意見文をもとに生徒同士で交流させることを通して、「正しく」「豊かに」話す・聞く力を身につけると同時に、新たな課題を発見させることができる。

資料3 学習シート① 学習の見通し・課題意識の言語化シート

「青が消える」学習シート① 年 組 番 () ()

ステップ1 観点を持って小説を読もう

小説を読む上での6つのポイント 習得(基本)する観点

1. 状況設定を確認する。(時代背景・舞台・登場人物に注目しよう)
2. 状況設定とあらずじを確認する。(内容のまとまり「場面」にわけて読もう)
3. 中心人物変化とその要因を確認する。(見方や内面がどのように変化したのか考えよう)
4. 対比的な人物の役割と効果を確認する。(対比的な人物はどんな人物として描かれているのか考えよう)
5. 個性的な「描写」や象徴的イメージの効果を読み取る(色のイメージ・比喩などに注目して読もう)
6. 作品のテーマ(主題)を理解する(作者が伝えたかったことを考えよう)

※このポイントを意識してこれから学習していきましょう!

1. 「青が消える」を読んで、興味を持った場面、面白いと思った場面を選びましょう。できたら理由も書きましょう。

2. この小説を読むために、大切だと思う場面・文章を選びましょう。

理由

場面

理由

文章

理由

3. 興味をもった登場人物を選びましょう。できたら理由も書きましょう。

登場人物

理由

4. 優れていると思う「表現」や「イメージ」を抜き出し、その理由を書こう。

理由

5. 今日の学習を自己評価しよう(◎・○・△)

1 現代小説の「読み方」の観点を理解できたか。

2 「青が消える」をすらすら音読できたか。

3 観点に沿って感想をもつことができたか。

資料4 学習シート② 作品の状況設定、構造、あらずじ読み取りシート

「青が消える」学習シート② 年 組 番 () ()

ステップ2 状況設定・あらずじを理解しよう

1. 状況設定を理解しよう

- (1) 作品の時代はいつですか。
- (2) 作品全体の舞台はどこですか。
- (3) 主な登場人物を4人書きましょう

2. 場面ごとの出来事を整理しよう

場面構成

1 場面 冒頭

2 場面 展開①

3 場面 状況設定

4 場面 展開②

5 場面 展開③

6 場面 展開①

7 場面 展開②

8 場面 結末

内容

() をかけているときに () が消えた。

・そのとき () をかけていたのはまたまた () と () 青が消えたしまったのだ。僕はすぐ気づいた。僕には見当もつかなかった。

・僕はひとりぼっちだった。

・僕は少し前にガールフレンドと () をして落ち込んでいた。

・僕は () に電話をかけてみたのだが、 () のアパートに電話をかけてみた。最後に、仕方なく ()

・時計は () を指していた。

・僕は家を出るとまっすぐに () まで行ってみた。

・今では、ブルーラインのなにもかもが () に変わっていた。

・時計は () を指していた。

() を見ているうちに、僕の不安は高まってきた。

・僕は () に電話をかけ、 () を使って公衆電話から () を呼び出した。

・やがて町中の時計が () 時を打った。 () のことなんか気にしてはいなかった。

①小説は「状況設定」「展開」「発展」「結末」の構成であらずじをまとめるとよくわかります。

②「青が消える」では、冒頭で象徴的な描き方がされています。これは村上作品によく見られる方法です。

③「展開」は、中心人物がある人物と出会い、関係を作り始める段階です。

資料5 学習シート③ 小説の「読み方」習得シート

青が消える「学習シート③」 年 組 () 番 ()

ステップ3 中心人物の変化とその理由・対比的人物の役割を読み取る

中心人物の変化とその理由・対比的人物の役割を読み取る
 ☆中心人物(岡田)のイメージや心情・行動などが「はじめ」と「おわり」では変化します。
 中心人物の変化に注意して読みましょう。

1. 中心人物の設定と効果
 (1) 一九九九年の大晦日の「僕(岡田)」の状況をまとめよう
 ・僕は() 家に残ってひとりで () だった。
 ・少し前に() () をした。() をかけていた。
 ・年号が() () 。

(2) ここからどのような人物として描かれていることがわかりますか、考えよう。

2. 中心人物の変化とその要因
 作品の中で、大きく分けて二度(私)の心情の変化が起こります。変化した場面とどのように変化したかを、その要因も含めて考えてみましょう。

場面	変化の内容	変化の要因
一度目の変化 6場面	僕の() はだんだん高まってきた。 こんな風() 青という色() 失ったまま() して僕() 以外() それ() ついて() とくに() 心配() もして() いない() 僕() には() そう() 思() えた() まま() ー 新しい() ミレニアム() に入() っ() て() し() ま() っ() た() ら() () () と() い() う() 気() が() し() た() の() だ() 。	青() が() 消() え() た() 理() 由() を() () () と() () () に() 聞() い() て() み() た() が() () 誰() も() 青() が() 消() え() た() こ() と() を() ()
二度目の変化 8場面	誰() も() 消() え() た() 青() の() こ() と() な() ん() か() 気() に() し() て() い() な() か() っ() た() 。() () () と() 僕() は() 小() さ() な() 声() で() 言() っ() た() 。() そ() し() て() そ() れ() は() () () と() 僕() は() 小() さ() な() 声() で() 言() っ() た() 。()	① 新() し() い() ミ() レ() ニ() ア() ム() を() 迎() え() () 誰() も() () ② 内() 閣() 総() 理() 大() 臣() に() 何() か() () こ() と() と() つ() つ() ぐ() れ() ば() よ() い() と() 言() わ() れ() た() こ() と()

3. 対比的人物の役割と効果
 対比的人物は、中心人物の行動を際立たせたり、中心人物に影響を与えたりする役割があります。
 「青が消える」では、中心人物「僕」の考え方を浮き立たせる役割があります。

対比的人物とその役割を結びつけよう。下の空白に理由も書こう。

人物	役割
別れたガールフレンド	管理する意味を考えようとしな人物
地下鉄の駅員	世界を管理する大きな力を象徴する人物
内閣総理大臣	目先の変化や流行にとらわれている人物

ステップ4 象徴的イメージと主題の構造を読み取る

1. 「青」が何を象徴しているか考えよう
 ☆「青が消える」では、「青が消えてしまったのだ。」でも青がないんだ」「そしてそれは僕が好きで色だっただのだ」というゴシックの部分() が読者の想像をふくらませます書き方になっています。「青」は何を象徴しているのか考えてみましょう。

(1) 「〇〇が消える」をつくらせて見よう
 (2) 2場面「僕」はどんな青を探しているのだろう。また、どんな青だと考えるか考えてみよう。
 (3) 6場面「僕」はどんな青を探しているのだろう。また、どんな青だと考えるか考えてみよう。
 (4) どうして「青」がなくなってしまうのか書きましょう。

2. この作品のメッセージ(主題)を読み取る
 ヒント：内閣総理大臣の考えがよく分かるところに注目してみよう
 「主題の考え方」主題とは作品によって伝えられる中心的なメッセージのことです。大きく分けると、次の三つに考えられます。
 ①作家の主題：他作品などでも多く見られる作家の意図した問題意識・メッセージ。
 ②作品の主題：作品の構造・人物の変化に見られるメッセージ。
 ③読者の主題：読者が作品から自由に受け取るメッセージ。ここでは①・②について考えましょう

(1) 作品の主題
 中心人物の変化から分かるメッセージを書こう。
 (2) 作家の主題
 村上春樹の作品では、非日常的な事件を描くことを通して、現代社会を批評する方法が多く見られます。
 「青が消える」を通して村上春樹が現代社会や現代人に向けているメッセージを書きましよう。

3. 現代小説の読み方の学習(学習シート2・3)について振り返り、自己評価をしよう(◎・○・△)

1	状況設定について理解できたか	
2	場面・構成とあらすじを理解できたか	
3	中心人物変化とその理由を理解できたか	
4	対比的人物の役割を理解できたか	
5	個性的な「描写」や象徴的イメージの効果が理解できたか	
6	「青が消える」のテーマ(主題)を捉えることができたか	

4. 学習シート3の学習を通して学んだこと・考えたことを書こう。

資料6 学習シート④ 「論理的に」記述する観点・原稿用紙へのまとめ方を学ぶシート

「青が消える」学習シート④ 年 組 番 ()

作品に対して意見をまとめるための観点を学ぶ

1 「青が消える」を読んで、自分の立場から感じたことや考えたことを論理的にまとめます。
(1) (4)のなかから一つ選びましょう。
論理的な文章を書く順序は、
①「はじめ」→②「なか」→③「まとめ」→④「むすび」が書きやすいです。この構成を意識して書きましょう。

- (1) 「青が消える」の気になった登場人物について
①「はじめ」気になった登場人物
(例)地下鉄の駅員について、考えたことをまとめます。
②「なか」登場人物の行動・様子・言葉・考え方など、考えさせられた部分を二カ所あげましょう。
③「まとめ」「なか」であげたことに対する考え・意見をまとめましょう。
④「むすび」周りの人に伝えたいメッセージを書こう。
(2) 「青が消える」の場面について
①「はじめ」心に残った場面
(例)「場面2(消えた家で青を探す)」を読んで、考えたことをまとめます。
②「なか」心に残った部分を二カ所あげましょう。(他の場面との関連で考えを書く場合は、二つの場面からあげてもよい)
③「まとめ」「なか」であげたことに対する考え・意見をまとめましょう。
④「むすび」周りの人に伝えたいメッセージを書こう。
(3) 色のイメージについて
①「はじめ」自分の好きな(嫌いな)色
(例)赤色について、自分の考えたことをまとめます。
②「なか」選んだ色に対する自分のイメージを経験などと照らし合わせて二つ書きます。
③「まとめ」「なか」であげたことに対する考え・意見をまとめましょう。
④「むすび」周りの人に伝えたいメッセージを書こう。
(4) 主題の解釈について
①「はじめ」作品のメッセージ
(例)この作品の〇〇というメッセージについて考えたことをまとめます(自分の経験や読書などから自由に読み取ったメッセージでも良いです)。
②「なか」①で示したメッセージの具体的な根拠を二つあげましょう。
③「まとめ」「なか」であげたことに対する考え・意見をまとめましょう。
④「むすび」周りの人に伝えたいメッセージ

2 原稿用紙の使い方

Table with grid for writing practice on manuscript paper. Includes instructions like '〇〇題(3)を2行で下げる' and '1行で何について書くのか読み手にはつきり伝える'.

○は空欄。段落を意識し、段落の初めは1マスあげましょう。

Table with 5 columns for self-evaluation. Column 1: 「はじめ・なか・まとめ・むすび」の四段階の構成を使って書けたか。 Column 2: 説明や記述がわかりやすく書けたか。(説明の明確さ) Column 3: 具体例が個性的か。(着眼点や発想力) Column 4: 誤字脱字なく、丁寧に書けたか。(表記の正確さ) Column 5: タイトルが「まとめ」を使って書けたか。

資料7 学習シート⑤ 意見文の相互交流(評価)シート

「青が消える」学習シート⑤ 年 組 番 ()

「青が消える」の「意見文」を発表しよう

1 クラスメートの「意見文」を聞いて、上手だと思った人とその理由を書こう。
1 発表するときのポイント
1 決まった時間(一分三十秒)を守って話す
2 聞き手の反応を見ながら、声の大きさや速さ、間の取り方、強弱を工夫して話す
3 話しているときの表情や視線、姿勢に気をつけて話す。
発表を聞くときのポイント
1 話し手を見て、集中して聞く。
2 発表者の意見、主張がわかる。「〇〇は××です」
3 意見や主張のために選ばれた具体例を聞く。
4 自分の考えや一言感想を持つ。

Table for peer evaluation. Columns: 全体, グループ, 名前. Rows: 発表会を終えての感想を書こう. Includes a section for '理由(自分の気付かなかった観点や上手な文章表現など)'.

8. まとめにかえて

(1) 「習得・活用」における指導内容の明確化

「習得・活用力」の重視に対応する授業・評価、指導計画の開発が、今求められている。特に、小学校高学年から中・高校への「到達目標・学びの系統性・評価」を踏まえた小説教材の実践研究、近現代小説教材固有の特質を的確にとらえた授業開発は極めて限られている。

(2) 「活用」の力を育てる小説教材の指導

これまでの小説教材の指導は狭い読解に重点が置かれていた。読み解いた内容をもとに論理的に発信したり、豊かに学び合ったりするという、いわゆる「活用力一報告・批評等一」に関わる指導は軽視されてきた傾向がある。本稿では、「活用1」「活用2」と指導内容・評価基準を具体的に整理することを通して、小説教材でつけるべき学力を明確にした段階的な授業開発の提案を行った点に特色がある。

(3) 村上春樹教材の具体的な授業モデル提案

現在、村上春樹の多くの作品が教材化され実践提案がなされている。本稿では、新学習指導要領で重視されている「習得・活用力」の小説教材指導について、村上作品の方法や構造の特質を踏まえた具体的な学習シート・授業モデル開発という形で提案した。本稿での開発を例に他の小説教材や中学での教材・授業開発等に発展させ実践することができる。

おわりに

新教育課程では「習得」すべき内容をもとに「活用」させることが重要視されている。指導要領にも、「活用」に関わる言語活動例が示されたものの、その評価基準や「習得」の内容との系統的なつながりや指導技術、段階等については不鮮明である。

こうした今日的な教育課題に対応するためには、「習得」すべき観点をもとに教材を正確に読み解き、自分の立場から効果的に発信・交流する「活用」の学習システムを開発することが必要である。「学習過程の明確化・学習の系統性」等の重視に対応し、指導と評価の一体化した授業モデルの提案が、今後の教育実践の課題の一つになっているからである。

なお、村上作品の文学的な価値、生徒の学びの実態、文学教材指導の現状と課題等に関しては、本稿では詳細に述べるができなかった。また、本稿における提案をもとに本学附属高校国語科で「論理的な言語力の育成—現代小説編—」という形で実践研究が行われたことを付記する（「第29回高校教育シンポジウム」2009年11月4日公開授業・研究協議会）。

注記

- 1 佐藤洋一「2008年改訂・日本の国語教育—国際化（欧米）スタンダードと日本的アイデンティ

- ティの行方—」（『愛知教育大学教育実践総合センター紀要 第12号』2009・2）
- 2 佐藤洋一「『活用力』学力の開発課題—二つの「活用力」の学力を一」（『国語教育』明治図書・2009年2月臨時増刊）
- 3 佐藤洋一「全教科等で行う言語活動の充実をどう進めるか」（高階玲治編集『小学校・中学校移行措置への対応ポイント』教育開発研究所・2008年10月）
- 4 佐藤洋一「国語科言語力の「三層構造」の明確化」（『現代教育科学』明治図書・2008年11月）
- 5 佐藤洋一「活用の学習内容・段階の明確化」（『国語教育』明治図書・2008年10月臨時増刊）
- 6 文部科学省『中学校学習指導要領』（東洋館出版社・2008年9月）
- 7 佐藤洋一「『学びの系統性』と評価基準から—国語科『活用能力』を伸ばすための方策—」（『授業研究』2008年7月号）（明治図書）
- 8 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校の学習指導要領の改善について」（2008年1月）
- 9 明治書院『新精選国語総合 指導資料 現代文編』（平成18年度版）
- 10 村上春樹『象の消滅—短篇選集1980-1991—』（新潮社・2005年3月）、「ノルウェイの森」その他、参照。
- 11 佐藤洋一「現代小説のレトリック・文体—松本侑子『植物性恋愛』における〈構造〉と批評性」（『国語国文学報55集』愛知教育大学、1997年3月）
- 12 佐藤洋一「聞く・要約・レポート作成を全員に一特集・情報を読み解く力を育てる（国語科の重点指導）—」（『国語教育』明治図書・2009年11月号）

〈主な参考文献〉

- 1 佐藤洋一 常原拓「現代小説教材における「国語科学習・評価システム」の開発—村上春樹「七番目の男」（高3・第一学習者）の授業モデルを例に—」（『愛知教育大学研究報告 第55輯（教育科学編）』2006年3月）
- 2 佐藤洋一 鈴木悟志「実践・文学を〈情報〉としてとらえる発信型の国語科学習」（『愛知教育大学研究報告 第50輯（教育科学編）』2001年3月）
- 3 佐藤洋一 伊藤清英「物語を〈情報伝達のモデル〉にしたスピーチの指導」（『愛知教育大学教育実践センター紀要 第7号』2004年3月）
- 4 日本言語技術教育学会編（編集委員長佐藤洋一）『言語技術教育17—論理的な「言語力」を育てる国語科の授業—「新学習指導要領（案）」の検討—』（明治図書、2008年2月）
- 5 安彦忠彦『活用力を育てる授業の考え方と実践』（図書文化・2008年6月）、市毛勝雄『発信型の読みの授業』を提案する』（明治図書・2002年1月）
- 6 木股知史編『日本文学研究論文集46 村上春樹』（若草書房・1998年1月）、柘植光彦『村上春樹テーマ・装置・キャラクター—国文学解釈と鑑賞別冊』（至文堂・2008年1月）、村上春樹研究会『村上春樹作品研究辞典』（鼎書房・2001年6月）、河出書房新社編集部編『村上春樹『1 Q84』をどう読むか』（河出書房新社・2009年7月）等